

ホタテガイ採苗速報

稚貝採取は2分では西湾で7月上旬、東湾で7月中旬からできる見込み
分散が遅れた場合に備えて、ネットに稚貝を少なめに入れましょう

1 ホタテガイの付着状況

6月18～23日に行った第2回全湾付着稚貝調査結果は図1～3および表1、2のとおりで、ホタテガイ稚貝の平均付着数は、間引きをしないものでは西湾で34,074個/袋、東湾で161,045個/袋と過去10年の平均値(平年値)それぞれ118,791個/袋、344,086個/袋よりかなり少なくなっています。また、間引き後の平均付着数は、西湾で29,510個/袋、東湾で40,645個/袋でした。

稚貝の平均殻長(間引きなし)は、西湾で3.57mm、東湾で2.31mmとそれぞれの平年値2.26mm、1.46mmより大きくなっています。また、間引き後の平均殻長は、西湾で4.14mm、東湾で2.82mmと、いずれも間引きをしないものより大きいサイズとなっています。

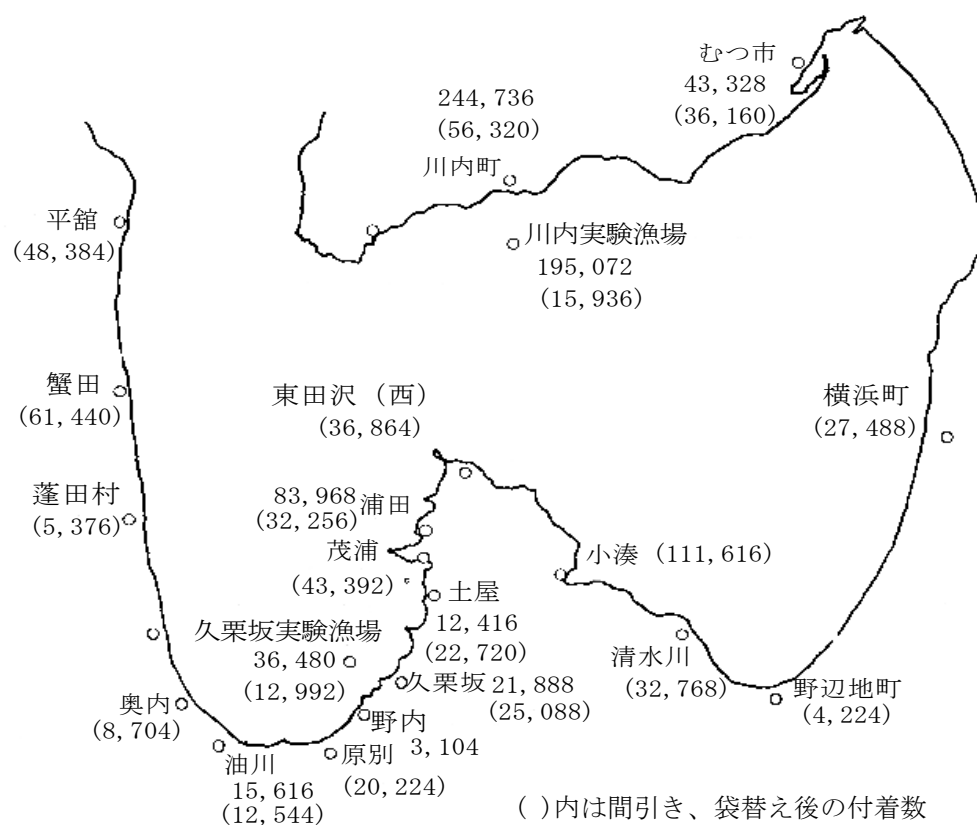


図1 調査地点毎の付着数〔単位：個/袋〕

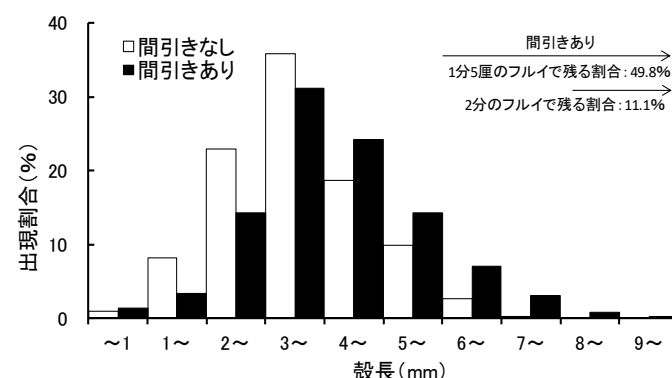


図2 ホタテガイの殻長組成(西湾平均)

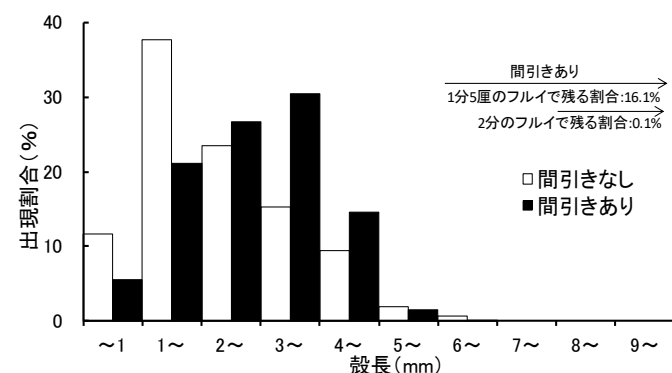


図3 ホタテガイの殻長組成(東湾平均)

2 水温の状況

各ブイの6月18～24日の週別平均水温は、表3のとおりです。15m層の6月第4半旬平均水温は、平舘ブイではなはだ高め、青森ブイでかなり高め、東湾ブイでやや高めとなっています。

3 今後の見込み

適正な付着数に間引いた採苗器については1分5厘のネットに稚貝採取する場合、フルイに5割残るのは、西湾で来週、東湾で再来週から、2分の場合は西湾で7月上旬、東湾で7月中旬からの見込みです。なお、西湾でフルイに7～8割残るのは、1分5厘で7月上旬、2分で7月中旬の見込みです。稚貝採取時の注意事項は裏面にあります。



①



②

4 稚貝採取時の注意事項

(1) 稚貝を大切に扱いましょう。

○作業は早朝の涼しい時間帯に行い、タライや水槽の水温が上がらないように、シート等で直射日光を防ぎましょう。

○高水温時にはタライや水槽の水は出来るだけ深い水深帯から汲み上げるようにしましょう。水温上昇や酸欠で稚貝が死んだり、成長不良になる危険性があるので、タライや水槽の水はかけ流しにするか頻繁に交換しましょう。

○稚貝は、海水温が26℃を超えるとへい死の危険性が高くなります。海水温を計ったり、海況自動観測ブイならびに水温自動観測ブイの水温（表面URL、QRコード）を参考にしながら26℃を超す日は稚貝採取をしないでください。

○稚貝は乾燥にも弱いので、手早く作業を行いましょう。

○稚貝採取が遅くなるほどムラサキイガイが成長し、ホタテガイ稚貝とくつつきやすくなり、作業効率が悪くなるので注意しましょう。

○採苗器内の稚貝は成長や水温上昇に伴い、袋の下に落ちて溜り、異常貝率やへい死率が高くなるので、稚貝採取は早めに完了しましょう。

(2) 適正保有数、適正収容数を守りましょう。

○稚貝採取では決められた保有数を守りましょう。

○パールネット1段当たりの収容数を適正にしましょう。稚貝がへい死しない分散時の中層水温は23℃以下です。分散が遅れると稚貝が成長し、過密状態になることから異常貝が多くなります。分散が遅れる可能性があるパールネットには、稚貝を少なめ（50～100枚/段）に入れましょう。

(3) 採取後の管理に気をつけましょう。

○採取後の稚貝が足糸でネットに付着しているかどうか見ながら作業を進めましょう。

○水深が浅いほど水温は高く、潮も速いので、採取後は施設を中層以深に沈めましょう。また、立ちきり（土俵）やオモリをつけて、施設やネットを安定させましょう。

○採取後も一部の採苗器を残しておきましょう。